

暮らしに役立つ情報満載！



住まいのニュース

2023
8
vol.153

今月の特集

注文住宅のコストダウンのコツ

注文住宅は、自分の好みやライフスタイルに合わせて細部までこだわることができる魅力的な住宅ですが、その反面、こだわりすぎて予算をオーバーしてしまうことも。そこで今回は、注文住宅のコストダウンのコツについてまとめてみました。

注文住宅の設計時に気を付けたいポイント

予算が膨らんでしまった場合、まずは、総二階にするなど、建物の形状をシンプルにすることを考えてみましょう。形状を複雑にすれば、その分、工数が長くなりコストも上がります。また、間取りも同様で、複雑にすれば構造的に無駄な部分が多くなり、建築費が高くなります。シンプルな間取りは、無駄なスペースを省き、大きくコストダウンにつながります。

次に、延べ床面積を減らすこと。広い家は快適ですが、必要以上に広くなると、建築費だけでなく、光熱費や税金も高くなります。ライフスタイルに合わせて部屋数や広さを見直し、無駄な部屋や廊下を作らないようにしましょう。

キッチンやバスルーム、トイレなど、水道や排水が必要な水回りを集中させることも重要です。水回りを集中させれば、配管の長さや数を減らすことができ、工事費やメンテナンス費を抑えることができます。また、水回りの近くにある部屋は湿気や臭いの影響を受けやすいので、水回りを集中させることで快適性も向上します。

屋根の形をシンプルにすることもコストダウンにつながります。屋根の形が

複雑になると、屋根材や構造材の量が増えて建築費が高くなります。屋根の形をシンプルにすることで、コストダウンだけでなく、メンテナンス性や耐久性も高めることができます。

収納スペースもコストの見直しポイントとして考慮しましょう。当然、収納スペースは必要ですが、あまり多く作ると建築費や床面積が増えてしまいます。壁や階段下などのスペースを有効活用できる場所に収納を設けることもコストダウンになります。

その他にも、コストが高くなる和室は採用しないことや、窓のサイズや数を見直すこともコストダウンのポイントになります。和室は畳や襖など特殊な素材や工法が必要で、どうしてもコストが高くなってしまいます。窓は光や風を取り

入れることで快適性を高めますが、窓のサイズや数が多くなると、建築費や断熱性に影響します。

絶対やってはいけないコストダウンの注意点

コストダウンの注意点として絶対やってはいけないのが、コストにこだわりすぎて住宅の性能を落とすことです。断熱性や気密性、耐震性などの住宅の快適性や安全性に関わる住宅の基本機能の性能を落とすと、光熱費や修繕費が高くなったり、災害時に被害が大きくなったりする可能性が高まります。住宅の性能は、長期的に見てコストパフォーマンスの高い投資です。コストダウンは大切ですが、住宅の性能を犠牲にしないようにすることはさらに大切です。



住まいの知恵袋

内部結露

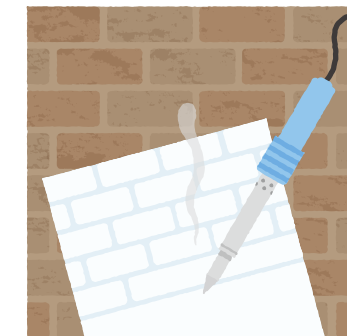


冬だけでなく、夏にも起きる「内部結露」は、室内の空気中にある湿気が壁などの内部に侵入し、その空気がエアコンなどで急激に冷やされて、壁内部で水滴になる現象です。内部結露が発生すると、断熱材や柱がカビたり腐ったりすることを誘発し、建物にとって大きなダメージを与えることになります。さらに、カビが繁殖することで、カビをエサとするダニも繁殖し、アレルギー症状などの健康被害を引き起こす危険性が高まります。内部結露は、建物の寿命を短くするだけでなく、住まう人への健康にも大きく影響を及ぼすため、除湿機を使用したり、エアコンのドライ機能で室内の湿度をコントロールする、吸水グッズを活用するなどの対策が求められます。

冬だけでなく、夏にも起きる「内部結露」は、室内の空気中にある湿気が壁などの内部に侵入し、その空気がエアコンなどで急激に冷やされて、壁内部で水滴になる現象です。内部結露が発生すると、断熱材や柱がカビたり腐ったりすることを誘発し、建物にとって大きなダメージを与えることになります。さらに、カビが繁殖することで、カビをエサとするダニも繁殖し、アレルギー症状などの健康被害を引き起こす危険性が高まります。内部結露は、建物の寿命を短くするだけでなく、住まう人への健康にも大きく影響を及ぼすため、除湿機を使用したり、エアコンのドライ機能で室内の湿度をコントロールする、吸水グッズを活用するなどの対策が求められます。

！できた！簡単DIY

発泡スチロールでレンガ壁



「お部屋をカフェのようなおしゃれな空間にしたい。」そんな方に、発泡スチロールを使用したレンガ調の壁のDIYアイデアをご紹介します。ご用意いただくのは、DIYしたい壁の面積に合わせた「板状の発泡スチロール」と「水性ペンキ」、そして

「砂」です。まずは、用意した発泡スチロールに好みの形状、サイズのレンガを描きます。レンガを描いたら、熱したハンダゴテでレンガの溝を掘ります。この時、発泡スチロールが溶けて煙が発生するので、外で作業をする、もしくは窓を開けながら作業を行ってください。その後、砂を混ぜた水性ペンキで色を重ねてレンガ色を再現していきます。色を塗り終わったら、両面テープで壁に貼り付けて完成です。

◆お金の豆知識◆

住宅ローンの借入額

一般的には、年収の約7倍が借入れの限度額となりますが、返済額が年収の25%以内であれば安全性が高いといわれており、毎月の返済額を考慮して、借入額を年収の5～6倍程度とするのが一般的です。金融機関では年収のほか、融資率や返済負担率、担保価値なども借入額を決定する要素としています。



暮らしの1ポイント

盆踊り



平安時代、太鼓などを打ち鳴らして踊りながら念仏を唱える「踊り念仏」が始められ、それが民間習俗と結びついて初期の盆踊りの原型になったといわれています。室町時代に入ると、笛や太鼓に合わせて踊る「風流踊り」が流行し、田楽や念仏踊り、風流踊りと派生した芸能が盆踊りに取り入れられて発展していきました。

おしえて！

Dr.住まいる

下駄箱の掃除

意外と手間がかかる下駄箱の掃除。嫌な匂いの原因にもなるため、こまめに掃除を行いましょう。手順としては、まず下駄箱から靴を全て取り出して、ホコリや砂利などを取り除きます。その後、雑巾で水拭きして内部を乾燥させます。水分が残っているとカビの原因になるのでしっかりと乾燥させましょう。

